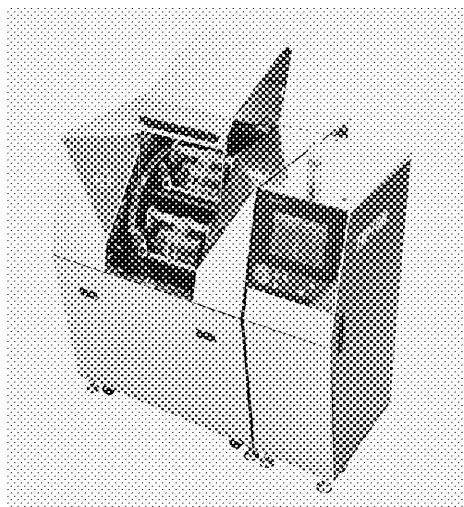


チップトン、米に再進出



研磨機や 晶析装置 車・医薬向け拡販

【名古屋】チップトン（名古屋市中区、小林知之社長）は、米国に再進出する。2025年内にミシガン州デトロイトに主力のバレル研磨機や連続晶析装置などの販売子会社を設立する。米国では09年に工場を清算して以来の再進出であり、海外唯一の現地法人となる。米関税政策を受け日系企業が同国に生産シフトする動きが出てきたこと、円安下であることが決断を後押しした。近年開発してきた高付加価値製品を生かし自動車、医薬品業界などに拡販する。新会社は全額出資に置いて顧客が部品や試より設立する。実機を一葉を持ち込んで試せる

試験加工スペースも備え、26年4月に操業を始める。人員は当初4人体制の予定。29年3月期に米国向けの売り上げを現状比5倍の5億円に拡大する計画。自動車部品などを加工対象物（ワーク）とするバレル研磨機は、重圧遠心タイプ「マイティ・マイルド」や、材料投入や仕分けなどを自動化するシステムとして提供できることを強みに拡販する。ティラー渦と呼ばれる渦の流れを利用する連続晶析装置「TVF」は、バイオ医薬品や二次電池用正極材などの生産効率化が図れるとして現地の引き合

いが増えている。コーティング装置も含め医薬品製造の本場である米国で需要を取り込む。チップトンは1994年にオハイオ州にバレル研磨機の組み立てを行う現地法人を設けたが、商品力が弱く苦戦する中、リーマン・ショックが引き金となり09年に撤退した。その後は高付加価値製品を相次ぎ開発。トランプ関税や円安も受け、米国再進出の環境が整ったと判断した。生産面ではTVFや大型バレル研磨自動システムなどの受注拡大を受け、飛島工場（愛知県飛島村）に30年3月期までに30億円を投じて供給能力を増強する計画を進める。